

## はつ夏

松岡隆子

飛燕はや山湖の空の晴れわたり  
かいつぶり暮春の波を潜りつぐ  
はつ夏の山湖は空のいろ湛へ  
若葉して曙杉の風ゆたか  
飛ぶものの風となりゆく五月かな  
青蘆のおのが高さをひたすらに  
一水はひかり流して花卯木

鳥声も子どもの声も五月かな  
アカシアの花降る誰か歌ひ出す  
誰待つとなく梅檀の花の樹下  
人呼ばふ声を遠くに青葉闇  
読み返す旅信みどりの夜を灯し

5月8日に新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが5類に移行した。東京では4年振りに神田祭が開催され、祭りの夏が始まった。街は活気に溢れようやく日常が戻ってきた。とは言えウイルス自体がなくなったわけではなく、いつ誰が感染するやもしれない。いまでも感染症に苦しんでいる人たちもいる。マスクはまだ暫く着用し手洗いも励行して慎重を期したい。

さて、「葉」は来年4月に創刊七周年を迎える。就いては4月27日に記念祝賀会を開催しようと思う。五周年大会では参加を断念された方も多く、句会と式典のみの簡素な会であった。今度こそ晴れ晴れと一堂に会し祝い合いたい。